

2004年 11月30日 第23号



JSSH NEWS

日手会ニュース

発行：日本手の外科学会

広報委員会

第47回日本手の外科学会を 振り返って

第47回日本手の外科学会
会長 阿部宗昭

目次

- 第47回日本手の外科学会を振り返って
- 理事長の任務を終えて
- 第9回IFSSH印象記
- 第4回日米合同手の外科会議へのおまねき
- 新Corresponding Memberのご紹介
- 新評議員紹介
- 新任教授紹介
- 委員会報告
- ハンドギャラリー(児島コレクション)
- お知らせ =学会案内=
- 編集後記

平成16年4月22日～24日の3日間、大阪国際会議場で開催しました第47回日本手の外科学会、並びに第10回春期教育研修会は盛会裡に無事終了することが出来ました。これは、ひとえにご指導いただいた名誉会員、特別会員、評議員をはじめ、学会に参加いただいた会員諸氏のお蔭と心からお礼申し上げます。学会が終了して5ヵ月を経過した今、主催者の立場から本学会を振り返ってみたいと思います。

開催に至るまでのこと

本学会では「学会に参加することで手の外科の進歩が概観できるように」との基本理念に沿って講演(10題)、シンポジウム(2テーマ)、ビデオシンポジウム(3テーマ)、パネルディスカッション(7テーマ)を企画しました。当初は欲張り過ぎたかとも思いましたが、幸い指定演者以外から多くの応募をいただき、65題のうち13題は一般応募から選ぶことができました。演題応募数は396題と過去最多となり、このため採用率は84.6%と過去最低と厳しいものとなりました。不採用となった応募者からのクレームもありましたが、会期、会場数の関係から演題数を制限せざるを得なかったことをご理解願えればと思います。

学会開催中のこと

幸いにも会期中は天候に恵まれ、有料参加者数は1,315名で過去最多のものとなりました。ハンドセラピストを加えると1,500名を優に越えていたものと思われます。また、同時に開催された第16回日本ハンドセラピー学会の参加者も347名と過去最多であったようです。このように多くの会員の皆様に参加していただいたのは、大阪という地の利もあるでしょうが、本学会の企画も評価いただいたのではないかと自負しております。

プログラム編成の時から思っていたことですが、ほとんどの口演が5会場で同時進行のため、主催者が企画したシンポジウムやパネル、あるいは講演を聞くことが出来ない参加者が少なくないことは残念なことです。これについては後述したいと思います。

医療の社会的な問題として今回、「手の外科のリスクマネジメント」をパネルとして取り上げました。早朝のセッションでしたが、参加者も多く、hand surgeon側から安全医療への取り組み、企業

側から安全教育の重要性、弁護士から医療現場での法的責任を示していただきました。私自身、4月から院内の安全管理の責任者となったこともあり、参考になることが多かったように思います。患者さんは勿論、当事者をも不幸にする医療事故を未然に防ぐ努力がこれから益々要求されてきますので、今後も取り上げて欲しいテーマと考えています。

今回の学会に関して多くの会員の方々からお褒めの言葉やお手紙を頂きましたが、お叱りも受けました。その一つが喫煙のことで、会場内に2ヵ所の喫煙エリアがあったのですが喫煙室ではなかったため、流煙のため臭くて集中できなかったというクレームです。5階のメインホワイエ（受付のあったホール）は広く、たばこの臭いがかもっていたとは思えなかったのですが、会長は場内を全て禁煙にすべきであるとの主張であったようです。病院内全面禁煙が増えている昨今、愛煙家には申し訳ないことですが、会場内全面禁煙が時代の流れかも知れません。

これからのこと

日手会学術集会での応募演題数が増え、参加者数も増えていることは手の外科の発展にとって喜ばしいことですが、2日間の会期で多くの演題を発表していただくためには会場数を増やして、同時進行でプログラムを編集せざるを得ません。この学会に参加する人の多くは手の外科を subspeciality とする人達ですので、できるだけ多くの口演を聞きたいと思っておられるでしょうが、実際に聞ける口演は1/4か1/5になってしまいます。アメリカ手の外科学会は一般口演会場は1会場で、同時進行は instructional course lecture だけとなっています。日本では subspeciality の学会の中で肩関節学会だけが1会場で口演発表の様式をとっております。日手会もポスターを多くして会場は1つか2つにすることを考えてみてはと学会が終ってから感じています。この問題は学会在り方委員会で検討すべきことですので今後の課題としていただきたいと思います。

今回は土井一輝会長のもとに第48回学術集会が4月21、22日に下関市で開催されます。多くの皆様に参加され素晴らしい学会になることを祈っております。



閉会式で第48回会長の土井一輝先生に
Milfordの木槌を渡すところ

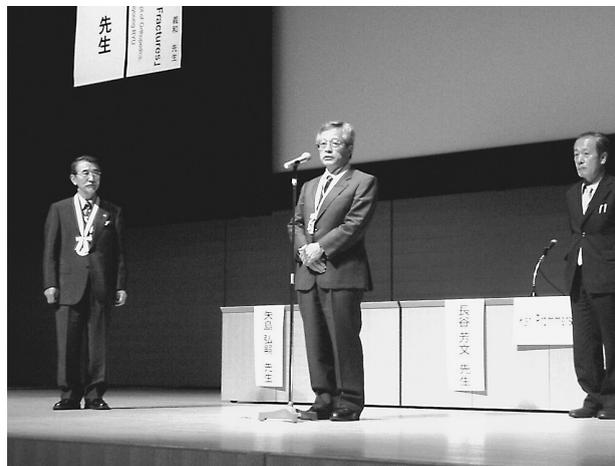
理事長の任務を終えて

生 田 義 和

小学生の頃から修理や工作が好きだった私は、出来上がった自動車の立体像を平面の画用紙に展開して図面を書き上げることなどが得意であったし、中学・高校時代には、小学生時代に始めた鉱石ラジオが80BK整流管（いわゆる真空管のこと）使用の5球スーパーヘテロダインになり、またミニチュア管の登場により乾電池使用の携帯ラジオに進化して、私はアルミニウムのシャーシーに穴を開けて真空管ソケットの取り付けに始まり、抵抗器やコンデンサーの半田付け作業にのめりこんでいった。もっとも困難でなかなかうまくいかなかったのは最後の受信調整であった。

もうひとつのめり込んだのは、写真であった。これは、写真撮影とか、カメラとか、といった単純なものではなく、写真機作りから撮影、フィルムの現像、引き伸ばしなど、一連の工程をすべてやるのである。このことには、家庭的な背景、すなわち父の影響が極めて大きかった。というのは、戦前からコダックポケット版を購入し、この裏蓋をはずして前部のみを手製の引き伸ばし機に装着し、現像も焼きつけも全て自分でこなしていた。これを子供の頃から傍で見ていたので、いろいろな手技を自然に覚えた私は、高校時代には引き伸ばしの覆い焼き（一部を手の影で覆いながら焼きこまないようにする技術で手の動かし具合など微妙な操作を必要とする）なども出来るようになっていた。高校2年生の時には、家族の反対を避けて会議を開くこともなくこっそりと私にオリンパス35を購入することを許可してくれたことが、入局最初の仕事であるスライド作りや、その後の撮影生活を決定付けた。このような背景が、広島大学整形外科に入局して、恩師の津下先生から「顕微鏡を見ながらの手術をやってみませんか」と言われて、まったくの抵抗感もなくその仕事を3年間で学位論文にまとめ、これが教室の大きな柱であった「手の外科」につながり、自分の一生の仕事となったのは、不思議ではなかったと自分で思っている。

手の外科の仕事の中での私自身の大きなエポックは、1973年の切断指再接着の成功と腱縫合における新しい試みとしてIntratendinous tendon suture methodを発表したことである。その後、外傷を中心として手の外科での治療経験が増え、次第に日手会での発表も増えた。結果として津下先生の後を受けて理事になり、会長を経験させていただき、理事長という、考えても見なかった重責を担うことになり、大変光栄でした。



理事長としての最後のご挨拶

第 9 回 IFSSH 印象記

戸部 正博

6月13日から16日まで、ハンガリーのブダペストで開催された第9回IFSSHに参加いたしましたので、その学会印象記を報告いたします。

各国から手の外科医が多数出席しました。日本からは前回のイスタンブールでも一番多かったと聞いておりますが、今回も約170名と開催国のハンガリーをも上回る参加者がありました。

会場はブダペスト市内東部のスタディオンにあるアリーナで開催されました。13日の夕方に行われたオープニングセレモニーでは、会長の挨拶に続いて、6人の新 pioneer of hand surgeons が紹介され、日本からは山内裕雄先生、矢部 裕先生、児島忠雄先生の3名が表彰されました。

エキジビションはハンガリー舞踊や砂の上に音楽に合わせて即興で絵を描くパフォーマンスが披露され、その後8時過ぎより welcome dinner が行われました。Welcome dinner は、学会場1階の展示会場の隣で行われ、私は前月に香港・上海手の外科の fellowship に参加したこともあり、彼らとハンガリー料理と名物のトカイワインを楽しみました。

翌朝より、4会場に分かれ program が始まり、活発な？質疑応答が行われていた様です。日本からは invited speaker として13名の先生方が、座長や special lecture などにご活躍されました。各セッションの質疑応答の時間配分は座長の裁量に一任されており、私が発表した distal radius fracture のセッションでは、質疑応答というよりは、世界の big name のコメントが多く、質問に困るようなことがありと即座にコメントが始まるといった進行がなされていました。

3日目の昼には、山内裕雄先生の特別講演が行われ、山内先生のライフワークであったサリドマイド肢に対する電動義手の応用や先天異常の成因など講演が行われ、昼休みにもかかわらず、多数の聴衆が参加していました。

3日目の夜には、旧ハンガリー王宮（現在はハンガリー国立美術館）で banquet dinner が行われました。ハンガリー国立美術館の1階から4階までをフルに使用した banquet dinner は、展示されているゴシック期やルネッサンス期の絵画や彫刻がそのまま置いてある中で行われ、大変盛況でありました。しかし、8時から行われた dinner は10時過ぎにはダンスパーティーも始まったため、main dish が出されたのが11時過ぎで、私は時差ぼけによる睡魔に耐え切れず main dish が終了した時点で、失礼させていただきました。



最終日の closing ceremony では本年度の日手会会長の阿部先生より、今秋に大阪で行われる第5回 APFSSH のアナウンスも行われ、4日間の日程が終了しました。

今回、私は IFSSH に初めて参加しましたが、日本の学会では、なかなか機会がない他大学のDrや海外のDrとの交流も十分に出来ました。2007年の第10回 IFSSH (シドニー) には、今回参加できなかったDr.も参加されてみてはいかがでしょうか？



6th APFSSH 2006

会 期：平成18年11月16(木)～18日(土)

会 場：Bangkok/Thailand

10th IFSSH & 7th IFSHT 2007

会 期：平成19年3月11日(日)～15日(木)

会 場：Sydney/Austraria, Sydney Convention and Exhibition Center at Darling Harbour

第4回日米合同手の外科会議へのおまねき

国際委員会担当理事

水 関 隆 也

既に会員の皆様にはご存知のことと思いますが、来る平成17年3月19日から22日までハワイのオアフ島におきまして第4回日米合同手の外科会議が開催されます。日手会は11月に開かれますAPFSSHに全力集中ということで、いまだ印象の薄い今回の合同手の外科会議ですが、この場をお借りしてPRさせていただきます。

この日米合同手の外科会議は1974年に日本で第一回目が開催されました。米国から Milford 先生を団長に50余名の気鋭の手の外科医が参加したといえます。しばらくの中断の後、1996年に第2回が米側の主催で、そして2000年に第3回がハワイで日本側の主催で開催されました。日程こそ不定期ですが、毎回日米両国からの参加者は旧交を温め、新しい友人を作って参りました。この会での交流を礎に ASSH の Bunnell Traveling Fellow のほとんどが日本を訪れるようになり、日手会の JSSH-ASSH Exchange Fellow が発足いたしました。

今回は、米側会長 Terry Light 先生、日本側会長中村蓼吾先生の下、米側実行委員長 Marybeth Ezaki 先生を中心に計画されています。日本側は国際委員会（金谷文則委員長）を窓口情報宣伝活動およびプログラム計画に携わっています。学術プログラムのみならず様々な Social Activity が計画されています。会期も日本側の会員およびその家族が参加しやすいようにとの配慮から3月下旬の連休を挟むように変更されました。日頃、忙しい毎日をお過ごしの方の会員の皆様には、学問と休養を兼ね、米国の会員と親交を深める絶好の機会と思われれます。また、会員の家族の皆様にはハワイならではの暖かさと開放感を味わってもらえる機会となることでしょうか。一人でも多くの会員のご参加をお待ち申し上げます。

以下に Ezaki 先生から送られて来ました歓迎メッセージをご紹介します。

Dear JSSH and ASSH Members :

Aloha !

Welcome to the 4th Combined ASSH/JSSH Meeting. We have selected the island of Oahu for this year's meeting, long considered the "gathering place" of Hawaii. The Hilton Hawaiian Village will be the host hotel for this year's meeting, and will provide a great venue. It is conveniently located on the edge of Waikiki, with close proximity to beautiful beaches and shopping opportunities.

We anticipate a great educational meeting, with keynote speakers from both the ASSH and the JSSH. In addition, we plan to have several symposiums which will include panel members from both societies. We predict that this will afford an unequalled opportunity to exchange ideas and knowledge between both societies. We will also share free papers, and have industry-sponsored workshops.

There will also be an outstanding optional activities program for the families, which will included everything from sightseeing to surfing lessons.

We look forward to seeing you in sunny Hawaii in March, 2005.

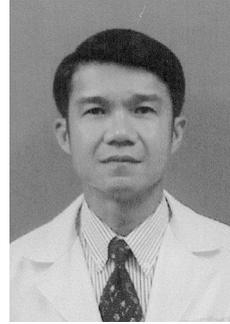
Mahalo,

Marybeth Ezaki and Scott Oishi

新 Corresponding Member ご紹介



Schulthess Klinik, Zurich, Switzerland
Beat Simmen



Siriraj Hospital, Mahidol University,
Bangkok, Thailand
Panupan Songcharoen

…新評議員紹介…

磯貝 典孝 (いそがいのりたか) 近畿大学医学部形成外科



このたび、伝統ある日本手の外科学会の評議員に選出いただきましたことを大変光栄に思っております。私は、1982年に近畿大学を卒業後、同形成外科に入局しました。Microsurgeryに興味があり、研修医時代にはRalph Davies Medical Centerでマイクロの基礎技術を習得しました。その後、切断指再接着を中心とする手の外科に従事して参りました。1995年より2年間、Harvard Medical School/Boston Children's Hospitalに留学し、Dr. Uptonのもとで形成外科医の視点に立った手の外科を勉強させて頂きました。今後、ボストンで始めた再生医学(tissue engineering)の基礎研究を継続し、手の外科領域へ発展、展開できるよう精進したいと考えております。ご指導をよろしく御願ひ申し上げます。

岩崎 倫政 (いわさきのりまさ) 北海道大学整形外科



この度、伝統ある日本手の外科学会評議員に選出されましたことを大変光栄に存じます。平成5年より現在の三浪明男教授に師事し、手の外科(肘, 肩関節も含まれますが)の基礎および臨床を専門に勉強してまいりました。平成6年より1年半はJohns Hopkins大学整形外科バイオメカニクスラボのE. Y. S. Chao教授のもとで手関節のバイオメカニクスについての研究を行い、平成10年からは北海道大学遺伝子制御研究所にて移植免疫に関する研究、平成13年からは北海道大学理学研究科と共同で軟骨を中心とした運動器組織再生に関する研究を行っています。今後は自分が行ってきた基礎研究の臨床応用を目標としながら、日本手の外科学会の発展のために貢献する所存ですので、一層のご指導、ご鞭撻を御願ひ申し上げます。

内田 満 (うちだ みつる)

東京慈恵会医科大学形成外科



この度日本手の外科学会評議員に選出され、大変光栄に存じます。私は昭和56年東京慈恵会医科大学を卒業後、形成外科学教室に入局、丸毛英二教授、児島忠雄教授、栗原邦弘教授のもとで、手の外科を学びました。とくに教室において多くの症例を経験することができたDupuytren拘縮および手の先天異常の治療、また末梢神経の移植に関する実験に興味を持ち、研究を続けてまいりました。今後は微力ながら、日本手の外科学会の発展のためにお役に立てるよう努力したいと思っております。

大井 宏之 (おおい ひろゆき)

聖隷浜松病院手の外科・マイクロサージャリーセンター



昭和62年富山医薬大を卒業、佐久総合病院で2年間臨床研修を受け、その後同病院で田島達也先生の門下生の隅田潤先生に手の外科・マイクロの指導を受けました。また他の新潟をはじめ、多数の国内外の先生方の指導を受け、平成7年から縁あって齋藤先生の元、聖隷浜松病院のスタッフとなりました。大学卒業後現在までどの医局にも属さず、今始まったばかりの臨床研修制度を受ける医師が進む道を前もって歩んでいる一人と思います。

手の外科・マイクロ全般に興味を持ち、常に新しい治療法を考えながら治療を行っています。また手の外科研修施設のスタッフとして、特に大学の枠を超えた先生方の指導と、病院発の治療が提供できれば幸いです。

小野 浩史 (おの ひろし)

国保中央病院整形外科



私は昭和58年奈良県立医科大学整形外科に入局と同時に、手の外科・マイクロサージャリーグループに所属いたしました。関連病院での研修後、平成2年から奈良医大に戻り、玉井進名誉教授に直接手の外科・マイクロサージャリーをご指導いただきました。大学では主にDRUJに関する臨床研究を行ってきました。平成10年より現職に就き週2回の手の外科外来を中心に、主に上肢の外科に従事しております。この度伝統ある日本手の外科学会の評議員に選出いただき、大変光栄に思っております。微力ではありますが、今後とも手の外科学会の発展に貢献できますよう努力いたす所存でございます。何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

佐藤 和毅 (さとう かずき)

慶應義塾大学整形外科



伝統ある日本手の外科学会の評議員に選出頂きましたこと、大変光栄に存じます。私は平成元年に慶應義塾大学卒業後、同整形外科教室に入局し、矢部裕先生、内西兼一郎先生、堀内行雄先生、佐々木孝先生、ほか多くの先輩にご指導を頂き、手の外科学の勉強をしてまいりました。また、平成13年より2年間、米国State University of New York at Buffaloに留学する機会を得て、関節軟骨再生に関する研究をいたしました。

日本手の外科学会の評議員として恥じぬよう努力するとともに、大変微力ではありますが本学会への学問的・社会的発展に貢献できるよう尽力いたす所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

高瀬 勝己 (たかせ かつみ)

東京医科大学整形外科



私は昭和61年東京医科大学卒業後、同整形外科に入局し米国テキサス州のW.B. Carrell Memorial ClinicでのResearch Fellowを経て平成14年に東京医科大学講師を拝命しております。この度、伝統ある日本手の外科学会の評議員に選出されましたことを大変光栄に存じます。故三浦幸雄名誉教授、今給黎篤弘名誉教授のご指導のもと、肩関節外科および手の外科を主体に上肢外科を学ばせていただきました。今後は大変微力ではありますが、日本手の外科学会への学問的貢献はもちろんのこと、手の外科一般の普及および発展に少しでもお手伝いできるように尽力いたす所存でございます。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日高 康博 (ひだか やすひろ)

神野病院整形外科



昭和59年大阪大学を卒業、大学、関連病院で整形外科、麻酔科に従事の後、平成4年から2年間、当時の名古屋大学分院整形外科にて手の外科を学ぶ機会を得ました。三浦隆行名誉教授、中村蓼吾教授をはじめ多士済々の手の外科医の中で学んだことが現在の礎となっています。現在、姫路市の神野病院に勤務しています。本院は岡山大学整形外科より医師を派遣していただいております。若手医師と一緒に上肢の外科を中心に診療しております。この度伝統ある本学会の評議員に選出していただき身の引き締まる思いです。

これからも本学会、手の外科に少しでもお役に立てるよう精進する所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

百瀬 敏充 (ももせ としみつ)

飯田市立病院整形外科



私は昭和60年信州大学を卒業後、同整形外科に入局しました。研修医時代は中土幸男先生に手の外科を指導していただきました。主に母指CM関節症の臨床と研究に従事し、平成10年から2年間Mayo Clinic バイオメカニクス研究所に留学し、Amadio先生のもとで腱について研究させていただきました。現在、飯田市立病院にて主に上肢の外科に従事しており、加藤博之教授を中心に長野県の手の外科の先生と協力してやっています。この度日本手の外科学会の評議員に選出していただき大変光栄に思っております。日本手の外科学会の発展のために貢献する所存ですので、今後とも一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

…新任教授紹介…

東海大学医学部外科学系 領域整形外科 教授

東海大学八王子病院整形外科

岡 義 範



平成16年4月1日付けをもって東海大学医学部外科学系 領域整形外科教授を拝命しました。誠に光栄であり、責任の重さを痛感しています。

東海大学では3年前より医学部の改革が行われ、講座制の廃止、複数教授制の導入、派遣人事の病院本部での一本化が開始されました。我々の整形外科教室は公的には無くなり、外科学系の中に纏められ、整形外科は診療単位としての領域整形外科を称することになり、従来の教室や医局の名称は使わないことになりました。この複数教授制の制度下に私の教授昇進が決まりました。

東海大に勤務して、24年が過ぎました。出身の慶応大より1980年に東海大に赴任した時、医局員は今井望教授以下8名のみで、東海大第1回卒業生が入局してきたのは4ヶ月後のことです。この少数の中に加わり、手の外科医としてはいまだ未熟でしたが、多くの外来・入院患者、そして手術を1人で処理することになりました。中央手術室にて処理しきれない救急・準救急の外傷患者を、たとえば手屈筋腱縫合・腱移植なども外来手術室でそれも助手がいない状況で、腋窩伝達麻酔+局麻で手術したことも度々でした。1人しか居ない外回りの看護婦さんに外からピンセットで指を把持してもらっての手術でした。手・指切断患者もかなり多く、術者が出来るのは私だけの時期で再接着に夜を徹したことは度々です。

これらの臨床に加えて、学生の講義、さらに週1度の午後は実験日にあて、末梢神経再生の実験研究を自分自身で始めました。この流れが以後の後続医師に受け継がれて、多くの研究成果を得ることになりました。今から考えると、人が極めて少ない中での獅子奮迅の働きだったと振り返ることが出来ます。この経験は以後の大きな自信と財産になりました。極めて重要な経験の時代だったと感慨深いものがあります。

教授就任時の年齢としてはやや年取っておりますが、気概には若いものがあります。全千里の行程をやっと五百里を過ぎたか！というところと認識しています。あと五百里を駆け続けようと張り切っています。

この4月から東海大学八王子病院での勤務を命ぜられました。八王子市は東京都西部の新大都市圏です。八王子病院はこの八王子市からの招請を受け、東海大学が力を入れて2年半前に発足した大学新付属病院です。全国で2番目に電子カルテシステムを導入し、院内全ての機器がこれに組み込まれ、ほぼ全ての最新医療機器を備えた超ハイテク型病院です。既に病院運営のおおよその基礎固めが行われ、一層の発展を遂げようとしている段階です。自分を先頭に整形外科全医員心を1つにして、良質で高度な医療に取り組み、この2年間余で得てきた地域の信頼を一層確たるものにし、手の外科を中心に整形外科全般にわたる学会活動を通じて対外的な認知を広めて行きたいと思っています。事は長期的で壮大なものとなります。とても私1人でやれる代物ではありません。多くの関係諸先生方のご支援とご協力を必要とします。今後、尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

防衛医科大学校整形外科学講座

根本孝一



このたび平成16年4月1日付で、防衛医科大学校整形外科学教授を命ぜられました。

私は昭和51年に慶應義塾大学医学部を卒業し直ちに整形外科学教室（池田亀夫教授，泉田重雄教授）に入局いたしました。いくつかの関連病院で研修を受けた後，昭和58年から平成4年まで，国立栃木病院（三笠元彦医長）に勤務いたしました。この間，順天堂大学山内裕雄教授のお世話でCanadaのMcGill大学医学部形成再建外科（H.B.Williams教授）に約2年間留学いたしました。平成4年から現在まで，防衛医科大学校整形外科学講座（新名正由教授，富士川

恭輔教授）に勤務しております。

手の外科との結びつきは卒後2年目に佐野厚生病院で中西忠行医長から手ほどきをして頂いたのが最初です。その後，手の外科班に入り現在に至るまで，内西兼一郎先生，伊藤恵康先生に教えて頂いております。また，卒後3年目に新潟手の外科セミナーに初参加以来全部で7回出席させて頂きました。研究は末梢神経障害をテーマとし兄弟子の堀内行雄先生に実験指導をして頂きました。矢部裕教授が名古屋から東京に戻られた後は親密にご指導を頂いております。

防衛医科大学校に赴任後，前任者の手の外科班チーフ政田和洋講師の後を引き継いで，手の外科班を有野浩司講師と共に担当してきました。研究面では末梢神経障害およびストレス医学を中心にしてきました。臨床面では手の外科一般のほか，手の感染症に対する持続灌流療法，上腕骨創外固定，肘関節鏡，末梢神経修復術後のpacemakerによる持続的筋電気刺激療法などに力を入れて来ました。この間，英国のSt.James University HospitalおよびRoyal National Orthopaedic Hospitalに半年間出張し，主に末梢神経障害を勉強する機会を得ました。最近では自衛隊音楽隊に関連してMusician's handの治療も行っております。

今後，手の外科では小侵襲手術を目指す傾向が更に強まり，再生医学の応用が模索され，学際的にストレス医学，精神医学，脳科学などとの連携が進展するものと思います。日本手の外科学会としては，会員数を増やすことも重要ですが，しっかりとした教育システムを整備して後進を育てることが肝要と思います。

防衛医科大学校は自衛隊医官の養成を目的として設立されており，一般の医学部・医科大学とは異なる性格を有しています。自衛隊医官は専門診療科の他に広域災害，PKO，特殊外傷・疾患などへの対応能力が求められます。自衛隊医療の特性を生かしつつ，手の外科の発展のために努力したいと思います。

宜しくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

委員会報告

肺塞栓予防に関するガイドラインについて

社会保険等委員会

委員長 立花 新太郎

(日整会整形外科疾患における肺塞栓症予防ガイドライン委員会)

本年4月の診療報酬改定で、肺血栓塞栓予防管理料が新設されました(B001-6, 305点)。この管理料とは、「・・・必要な機器又は材料を用いて計画的な医学管理を行った場合に、当該入院中1回に限り算定する。・・・処置に用いた機器、材料の費用は所定点数に含まれるものとする」と規定されており、さらに「・・・計画的な医学管理を行うに当たっては、関係学会より標準的な管理方法が示されているので、患者管理が適切になされるよう十分留意されたい」(平16保医発0227001,033006)となっています。ここに挙げた「関係学会の示す標準的管理」に当たるのが、日本血栓止血学会が中心となって組織した肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)予防ガイドライン作成委員会による『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)予防ガイドライン』(以下、『予防ガイドライン』)です。この予防ガイドラインでは、上肢の手術は低リスクに評価され、特別な予防法は必要なしとされています。しかし長時間の手術や、術前後に床上安静を余儀なくされるような症例においては、下肢深部静脈血栓症/肺塞栓症のリスクは皆無ではありませんので、中リスクグループに準じて予防管理がなされるべきと考えます。現在までのところ、上肢手術に本管理料を算定しても査定されることはないようです。整形外科関連項目に関しては、前述の予防ガイドライン本稿をご参照下さい。

日整会誌78巻10号、もしくは日整会会員用ホームページも参照できます。

DASH使用方法について

機能評価委員会

担当理事 藤 哲
委員長 西 田 淳

本年5月22日付でAAOSのEvidence Based-practice Committeeから正式に5年間の期限付きで認可されたDisabilities of The Arm, Shoulder and Hand (DASH) 日手会版について説明いたします。

DASH評価法は、上肢の運動器に障害を持つ患者の能力低下(disability)を自己評価する質問表として開発され、機能障害・症状に関する質問表と、選択項目のスポーツ・芸術活動、仕事に関する質問表の2部より構成されています。

前者は、様々な動作ができたかを問う23項目の質問と、疼痛やこわばりなどの症状を問う7項目の質問からなり、後者は、日常生活とは異なるハイレベルのパフォーマンスを行う人を対象として、スポーツ・芸術活動に4項目、特殊な仕事に対して4項目の質問が用意されています。被験者は、評価前1週間の自分の状態を、5段階の選択肢から選んで番号をチェックします(実際に行っていない動作については、想像して返答します)。上肢全体の能力低下を評価するため、左右や障害の部位と

は無関係に、その動作がどの程度可能であったかを評価します。

各質問事項には、1～5点が配点され、機能障害・症状スコアは、採点の合計を回答項目数で割り、この平均値から1を引いて25をかけて100点満点に換算します。すなわち点数が高い程障害が大きいという意味になります。

誰でもダウンロードを行うことにより使用可能です。(http://www.dash.iwh.on.ca/)

World standard (American standard ?) の評価法として、今後広く用いられる方法と確信いたしております。是非ご使用ください。

参考までに、DASH日本語版を大量に注文する際の費用等についてご案内いたします。

5人分を冊子にしたものを1部（今回日手会員に配付したもの）とすると、

300部で $300 \times 140 = 42,000$ 円（送料・消費税別）。

20人分を冊子にしたものを1部とすると、

300部で $300 \times 326 = 97,800$ 円（送料・消費税別）

500部で $500 \times 212 = 106,000$ 円（送料・消費税別）

お申し込み先：〒036-8061 弘前市神田4-4-5 やまと印刷株式会社

Tel : 0172-34-4111 Fax : 0172-36-3299

日手会ホームページについて

広報委員会

担当理事

委員長

ホームページ担当

堀 内 行 雄
青 木 光 広
香 月 憲 一

日本手の外科学会にホームページが立ち上がって早くも4年が経過しました。この間のインターネット環境の変化は著しいものがあり、広報委員会では日手会のホームページをより一層利便性の高い、内容豊富なものにしようと改革案を検討中です。改革の基本的な方針は会員専用のホームページを開設してオンライン査読や電子会議室、電子ジャーナル、診療相談などの機能を加えてはどうかというものです。会員専用のホームページを立ち上げるには会員全員にIDとパスワードを取得して頂く必要があり、そうすると現在のサーバーでは処理不可能となるため新しくプロバイダーとの契約が必要となり、当然の事ながら新たな経費が発生します。また、診療相談機能を持たせようとするセキュリティの問題などが発生しますので、現時点では時期尚早ではないかという意見もあり、改革には慎重にとり組んでおります。

出来るだけ多くの学会員の先生方の意見も取り上げながら、アクセスの多い活発なホームページを作ってゆきたいと考えています。

ハンドギャラリー(児島コレクション)Ⅳ

埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所

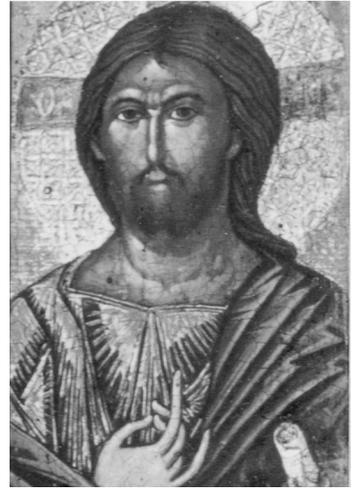
児島忠雄

キリスト教の絵画、彫刻においても、仏像に似た手の印相があります。西洋美術の聖母マリアの姿かたちのもとにはイコンのなかにもあり、幼児キリストと聖母マリアが自由な姿かたちで表現されるまでの手本になったのはビザンチンの美的表現であったとされています。そのギリシャ正教のイエスキリストの代表的な手の形は祝福の手であります。右手がその祝福の手で、左手で福音書を持っています。

右の示・中指はキリストの神性と人間性を示し、他の3本は父と子の聖霊を示しています。このしぐさを強調するために右手は左手よりやや大きく描かれます。カソリックの教義では、母指は手の中で支配的な位置にあるところから、三位一体の中心となる「父なる神」を表します。示指は父と子からの聖霊を示し、中指は他の指より長いところから「救い主キリスト」を意味すると言われています。

この写真は分裂以前のユーゴスラビアのベオグラードで買い求めたイコンの模写の小さなお土産品です。その他、キリストの小さな像、絵葉書で手の表情を見ることができます。

また、ご聖体の一部を納める洞が彫られ、手を頂く高さ60cmの木彫(18世紀ポルトガル)があります。



散歩みち — 下 関 —



第48回日本手の外科学会会場
海峡メッセ下関



会場から望む対岸 門司港

.....お知らせ.....

手の外科研修施設一覧

研修内容などの詳細は日手会ホームページをご覧ください。

研修希望者は各研修施設に直接申請、交渉を行ってください。教育研修委員会および日本手の外科学会は研修医の申請、および研修に関しては一切、関与いたしません。

施設番号	施設名	研修責任者	住所	TEL
1	北海道大学医学部附属病院整形外科	三浪明男	060-8638 札幌市北区北15条西7丁目	011-716-1161
2	大阪労災病院	安田匡孝	591-8025 堺市長曾根町1179-3	072-252-3561
3	山口県厚生連小郡第一総合病院	土井一輝	754-0002 山口県吉敷郡小郡町下郷 862-3	083-972-0333
4	新潟手の外科研究所	吉津孝衛	950-0965 新潟市新光町1-18	025-283-0306
5	東京手の外科/スポーツ医学研究所	山口利仁	192-0002 八王子市高月町360	0426-92-1115
6	埼玉手の外科研究所	児島忠雄	355-0072 東松山市石橋1721	0493-23-1221
7	聖隷浜松病院 手の外科・マイクロサージャリーセンター	斎藤英彦	430-8558 浜松市住吉 2-12-12	053-474-2222
8	鈴鹿回生総合病院	藤澤幸三	513-0836 鈴鹿市国府町112-1	0593-75-1212
9	医療法人あかね会 広島手の外科・微小外科研究所	津下健哉	730-0811 広島市中区中島町9-5 三津石ビル3階・4階	082-544-1227
10	大阪厚生年金病院	正富 隆	553-0003 大阪市福島区福島4-2-78	06-6441-5451
11	名古屋掖済会病院整形外科	渡邊健太郎	454-0854 名古屋市中川区松年町4-66	052-652-7711
12	弘前大学医学部附属病院整形外科	藤 哲	036-8562 弘前市在府町5	0172-33-5111
13	広島大学整形外科	越智光夫 石田 治	734-8551 広島市南区霞1-2-3	082-257-5232
14	奈良マイクロサージャリー・手の外科研究所（西奈良中央病院内）ならびに奈良県立医科大学整形外科	玉井 進	631-0024 奈良市百楽園5-2-6 （西奈良中央病院）	0742-43-3333
15	新潟県立瀬波病院リウマチセンター	石川 肇	958-8555 村上市瀬波温泉2-4-15	0254-53-3154
16	山口県立中央病院	酒井和裕	747-8511 防府市大字大崎7	0835-22-4411
17	愛野記念病院	貝田英二	854-0301 長崎県南高来郡愛野町3838-1	0957-36-0015
18	慶應義塾大学病院整形外科	仲尾保志	160-8582 東京都新宿区信濃町35番地	03-3353-1211
19	信州大学整形外科	加藤博之	390-8621 松本市旭3-1-1	0263-37-2659
20	大阪医科大学整形外科	阿部宗昭	569-8686 高槻市大学町2-7	072-683-1221

日本手の外科学会 教育研修ビデオライブラリー

希望者には実費（1本3,000円）で頒布いたしますので、事務局へお申し込みください。

巻数	タイトル	講師
1	腱移行術	津下 健哉
2	手の外科医に必要な皮弁の挙上法	土田 芳彦 他
3	橈骨遠位端骨折に対する種々の手術的治療法	斎藤 英彦 他
4	鏡視下手根管開放術	奥津 一郎 他
5	手関節鏡	玉井 和夫 他
6	Dupuytren 拘縮の手術 有茎血管柄付き DIP 関節を利用した指 PIP 関節再建のコツ	福居 顕宏 黒島 永嗣
7	Herbert Screwによる舟状骨偽関節手術	井上 五郎
8	腕神経叢損傷全型麻痺の再建手術： Double Free Muscle Transfer法(新版)	土井 一輝
9	リウマチ手関節の手術	政田 和洋
10	母指再建術①②	川端 秀彦 他
11	母指再建術③④	稲田 有史 他
12	遊離筋膜脂肪弁移植を用いた先天性近位橈尺骨癒合症の授動術	金谷 文則
13	手の外科手術手技 (1)	津下 健哉 木森 研治
14	手の外科手術手技 (2)	津下 健哉 木森 研治
15	手の外科手術手技 (3)	津下 健哉 木森 研治
16	手の外科手術手技 (4)	津下 健哉 木森 研治
17	指切断の被覆法	土井 一輝 他
18	手の外科手術手技 (5)	津下 健哉 木森 研治
19	手の外科手術手技 (6)	津下 健哉 木森 研治
20	手の外科手術手技 (7)	津下 健哉 木森 研治

2004年度最新版

21	Kienböck病の手術	安田 匡孝 他
22	PIPJ骨折牽引療法 指尖部切断再接着 尺側手関節部痛に対する尺骨楔状短縮骨切り術	黒島 永嗣 服部 泰典 吉田 竹志
23	手の外科手術手技 (8)	津下 健哉 木森 研治
24	手の外科手術手技 (9)	津下 健哉 木森 研治

会員特別頒布のご案内

日本手の外科学会では、各委員会にお願ひし、会員の活動に役立つ種々の事業を進めております。ご希望の会員には、実費で頒布いたしますので事務局宛お申し込みください。在庫に限りのあるものもございますので、ご希望の方はお早めにお申込ください。

教育研修ビデオライブラリー 全24巻（各3,000円(税込)：送料込）

<お詫び>準備を進めておりました新巻（No.21～24）に関しまして著作権にかかわる問題が発見され、教育研修委員会で検討した結果、再編集を行う事となり、作業の都合上、完成・発送が遅れております。お申し込みいただきました会員の先生方、また、ビデオ制作者の先生方、完成まで今しばらくお待ちください。
（教育研修委員会委員長 田崎 憲一）

手の外科学用語集 改訂版第2版（南江堂）（1冊3,500円(税込)）

日手会誌への投稿だけでなく、日常のいろいろな場面で役立つ用語集が改訂版第2版として発売になっております。
（用語委員会委員長 岡 義範）

手の機能評価表 第3版（1冊1,000円(税込)）

会員のご要望が多かった手の機能評価表 第3版を増刷いたしました。
（機能評価委員会委員長 西田 淳）

ネクタイ（1本 3,000円；送料200円） 数量限定

スーツとの相性も良く、大好評です。デザインは日手会ホームページ上でご覧いただけます。数には限りがありますのでお早めにお申込みください。
（広報委員会委員長 青木 光広）

タイタック、ネクタイピン、ハットピン（1個800円；送料200円）数量限定

故藤巻悦夫先生が第42回日手会の際、記念品として作成されたものをメモリアルとして復刻させました。是非とも学会にお出かけの際などにお付けください。
（広報委員会委員長 青木 光広）

携帯ストラップ 3種（1個600円；送料100円）数量限定

携帯電話の画面を拭く便利なストラップを作成しました。ゲー・チョコ・パーの3種類でお手頃価格となっております。お土産などにも是非どうぞ！
（広報委員会委員長 青木 光広）

関連学会・研究会のお知らせ

第22回中部日本手の外科研究会

会 期：平成17年1月29日(土)
 会 場：岡山市／岡山コンベンションセンター
 会 長：橋詰 博行（岡山大学整形外科）
 問合せ先：〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1 岡山大学整形外科学教室内

第26回九州手の外科研究会

会 期：平成17年2月5日(土)
 会 場：福岡市／福岡市立早良市民センター
 会 長：副島 修（福岡大学整形外科）
 問合せ先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学整形外科学教室内
 TEL:092-801-1011 内線3465, 3466 FAX:092-864-9055
 E-mail: seikeige@cis.fukuoka-u.ac.jp

第19回東日本手の外科研究会

会 期：平成17年2月11日(金)
 会 場：東京都／都市センターホテル
 会 長：落合 直之（筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系整形外科）
 問合せ先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内
 TEL 052-836-3511 FAX 052-836-3510
 詳細は <http://www.jssh.gr.jp/ejhand/>

第17回日本肘関節学会

会 期：平成17年2月12日(土)
 会 場：東京都／都市センターホテル
 会 長：伊藤 恵康（慶友整形外科病院）
 問合せ先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内
 TEL 052-836-3511 FAX 052-836-3510
 詳細は <http://www.elbow-jp.org/>

第4回日米合同手の外科会議

会 期：平成17年3月19日(土)～22日(火)
 会 場：ハワイ/オアフ島 ヒルトンハワイアンビレッジ
 問合せ先：日本手の外科学会事務局
 〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内
 TEL 052-836-3511 FAX 052-836-3510
 E-mail: info@jssh.gr.jp
 ※現在、事務局に詳細情報がございません。
 わかり次第日手会ホームページにアップいたします。

第48回日本手の外科学会学術集会

会 期：平成17年4月21日(木)～22日(金)

会 場：下関市／海峡メッセ下関

会 長：土井 一輝 (小郡第一総合病院)

学会スローガン：手の外科専門医を目指して

テーマ：手の外科のEBMとQOL,そして教育

特別講演：「手の外科の専門医制度と基本手術手技教育 (仮題)」生田義和先生

会長講演：「手の外科のEBM」土井一輝

招待講演：「Tissue Engineering and Upper Limb Surgery」

Wayne Morrison, M.D.

「Skin Flap in Hand Reconstruction」

William C. Pederson, M.D.

シンポジウム：1. 手の外科治療のEBM

2. 高齢者の橈骨遠位端骨折 (70歳以上の高齢者に対する治療法)

3. 手の外科機能評価とQOL (演者指定)

専門教育講座：1. 指尖部損傷の治療

2. キーンベック病 (III A, B) の治療

3. 舟状骨近位部骨折偽関節の治療

4. ドケルバン病の治療

5. リウマチ手関節, 伸筋腱の病態と治療

6. 欠指症の治療

パネルディスカッション：1. 手根管症候群治療合併症

2. 変則的神経修復術

3. 手関節鏡治療の現況

4. 人工指関節の遠隔成績

ビデオシンポジウム：1. 肘部管症候群の手術治療

2. 麻痺手に対する腱移行術

ランチョンセミナー：6題

第44回手の先天異常懇話会

問題症例などを持ち寄っていただき自由に討論する会です。多くの方々の参加をお待ちしております。会の進行を円滑に行うため呈示していただく症例数と概要をあらかじめ把握しておく必要がありますので、前もって応募していただくようお願いいたします。発表された症例は懇話会での症例検討の内容を含めた簡単なまとめ(原稿用紙2枚, 図2～3枚)を後日提出していただき、日手会誌に掲載いたします。

会 期：平成17年4月21日(木) ランチョン(予定)

会 場：下関市／海峡メッセ下関(第48回日本手の外科学会学術集会 会場)

会 費：1,000円 ※昼食を用意いたします

応募方法：平成17年3月末日までに郵送またはe-mailで症例の概要を写真と共に下記あてお送りください。なお、症例数の関係で当日検討できなかった症例につきましては、先天異常委員会で検討のうえ、後日報告させていただきます。

郵 送 先：〒355-0072 埼玉県東松山市石橋1721 埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所
問合せ先 担当：福本恵三

E-mail: handsurg@seikei.or.jp

(※日本手の外科学会先天異常委員会 委員長 福本恵三)

※当日はPCによるプレゼンテーションになります。各自PCを持参してください。

プロジェクターとの接続には、一般的な15ピンのコネクター以外は対応不能ですので、必要に応じて変換ケーブルも持参してください。またPCのトラブルに備えてプレゼンテーションをCD-ROMまたはUSBメモリーで持参してください。スライドによる発表は受付いたしません。

※発表時間は5分です。発表者の方は必ず時間までに会場受付にお越しください。

第11回日手会春期教育研修会

会 期：平成17年4月23日(土)

会 場：下関市／海峡メッセ下関

問合せ先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (侑)ヒズ・ブレイン内

TEL 052-836-3511 FAX 052-836-3510

E-mail：kanmon48@jssh.gr.jp

事務局だより

第5回アジア太平洋手の外科学会(5th APFSSH)が無事盛会に終了しました。

SARSの影響で延期が決定以来、毎日膨大に増え続ける事務作業を「学会よ、早く終われえ～、早く終われえ～」と念仏のように唱えながらもくもくと作業に勤しみ、「本当に無事終了するのだろうか？」と不安な気持ちで迎えた当日。終わってみると、なんと25カ国より過去最大となる550名を超える皆様にご参加いただき、会期中のみならず、終了いたしました今でも「すばらしい学会であった」と各方面よりお褒めの言葉を頂戴いたしました。これも会員の先生方のご協力あってのことと深く感謝申し上げます。

会期前は毎日、各国からの100通を越えるE-mailの処理に加え、先生方からいただく電話の対応に「いっそどこか南の島に逃亡してしまおうか？」とふとよぎったりもしましたが、今はなんだかそんな日々がなつかしい気分です。だからって、もう一度やるか？って聞かれたら、ノーコメント！でお願いします。

最後になりましたが、この場をお借りして、会長、副会長、組織委員、準備委員、Local Hostの先生方の温かいご指導に心から感謝申し上げます。本会の準備運営に携わることができ、本当に光栄でございました。

今年はいよいよハッピーな年越しが出来そうです。

それでは、皆様よいお年を！

担当：三浦裕子

編集後記

本年度から日手会ニュースを担当させていただくことになりました。10年前に広島での日手会学術集会の際に、生田会長のご指示で広島そごうで「手のケガと病気展」と銘打った市民向けの展示会を担当したり、この日手会ニュースの第1号の編集に参加させていただいたりしましたが、学会の広報委員会活動を担当させていただけるようになるとは思っておりませんでした。会員の皆様に有益な情報をいち早くお届けできる様努力させていただきます。

ところで、日手会ニュースの第1号をお持ちの方がおられましたら、コピーで結構ですので委員会の方まで提供いただければ幸いです。編集に携わったものとしてはお恥ずかしい限りですが、記録を紛失しております。ご協力のほど宜しくお願いいたします。(文責：砂川 融)

広報委員会

(担当理事：堀内行雄 アドバイザー：田中寿一 委員長：青木光広 委員：池上博泰、香月憲一、砂川 融、高原政利、戸部正博)